

研修センター便り

No. 7 後志教育研修センター

平成27年11月26日 発行

TEL0136-22-1337

FAX0136-22-2681

文法指導の新しいスタンダード～「小さな変化」が「大きな変革」へ～ 所長 平 正博

先日、第3回センター組合教育委員会があり、講座の副題や目的などを工夫することが、受講へのインセンティブとなるのお話をいただきました。その折に、上記にある英語科研修講座の副題を紹介しました。そしてこの講座の目的には、「子供たちの5年後、10年後に英語を用いて臆せずコミュニケーションをとることのできる素養を育成することは不可欠です。それを英語科教師チームで追求していくことが本講座のゴールです。」とありました。こちらを受講への探究心をくすぐります。講師お二人の発案です。御存じの通り、平成32年度から順次、学習指導要領の全面実施が始まります。現在小1の子は、32年度には小6となり教科書を使い英語を教科として学びます。また現在小2の子は、33年度には中2となり、すべて英語のみの授業を体験します。現在小3の子は、34年度には高1となり、そこでは英語による討論活動が行われる予定です。さて、講座当日の末広中では、臆せず英語で話す主体的生徒。生徒に深い仕掛けを施す哲学的講師。共に学ぶよい関係を見つけました。受講者全員で高校教師による模擬授業も体験。もちろんオールイングリッシュ。次に、西陵中主催の地域連携研修にも参加。その日二度目となる授業においても大勢の大人の中で臆せず活動する生徒の姿が輝いておりました。関西外国語大学の中島教授による参加型の研修が終わる頃、外は既に真っ暗でしたが、受講者の表情は満足感いっぱい会話をはずませ、眼はらんらんと輝いておりました。空海は、「あなたの眼が明るく開かれていれば 出会うものはすべて宝となります 正しい道は遠くにあるものではありません あなたの心ひとつで 目の前に開かれるのです」と言っております。教師の仕事ほど、高度に知性的で、専門性を求められる仕事はありません。この日研修を終えた受講者の姿や気持ちは、空海の言葉に極めて近かったように思います。教師自身の学ぶ意欲が子供を肯定的に捉えます。子供を孤立させません。宝としてその子の尊厳を重んじます。それら一連の真理は、毎日の授業と他との関わりを用意された研修から生まれます。



模 擬 授 業

最近、ある講師からお手紙をいただきました。「研究授業は自己研鑽の意味もありますが、何よりも子どもたちの頑張りを見てもらいたいとの願いがあります。」という内容でした。「子供の頑張りを見てもらいたい。」、何と素晴らしい。子供を熱く思い研鑽する教師の真骨頂が、このお手紙にありました。またもや空海のことを思い起こしたところでございます。

平成27年度 研修センター講座受講者数 608名

今年度も多くの講座で研修を受けていただきました。

名寄市からの受講もありました。講師先生には格別お世話

になりました。

講座名	受講者数
学校経営（1）	18名
学校経営（2）	37
教職員の経営参画	9
学級経営（1）	10
学級経営（2）	21
学級経営（3）	15
校内研修（ミニ道研8名含む）	25
特別支援教育	28
幼保小の連携	29
社会教育	14
学習指導（基礎）	24
学習指導（応用）	21
国語科	24
社会科	12
算数・数学科	24
理科	14
英語科	37
小学校外国語活動	11
道徳教育	42
音楽科	16
保健体育科	20
情報機器	11
学校保健	38
学校事務	25
へき地・複式教育	10
食育	13
書写実技	23
読書活動	17
家庭科	8
図工・美術科	12

市町村	受講者数
島牧村	11名
寿都町	35
黒松内町	18
蘭越町	21
二セコ町	22
真狩村	15
留寿都村	12
喜茂別町	18
京極町	22
倶知安町	99
共和町	36
岩内町	31
泊村	10
神恵内村	8
積丹町	11
古平町	8
赤井川村	11
仁木町	14
余市町	47
小樽市	135
教育局他	24
合計	608名

授業提供に御理解され、御協力いただきました校長先生をはじめ、当該校の教職員の皆様に深く御礼申し上げます。

へき地・複式研修講座 6月26日

講師 山本里香（赤井川都小）
山田 恵（二セコ近藤小）



学校保健研修講座 7月13日

講師 丸山 素子（向陽中）
駒形 泰子（岩内東小）



講座における課題は、受講者数の伸びが低迷している講座への対応です。